

2019（令和元）年度 第1回 地域生活拠点に関するワーキンググループ

日 時	2019（令和元）年7月31日（水） 13時00分～14時30分
場 所	寒川町役場電算会議室
出席者	大西委員・山根委員・長谷川委員・潮委員・井地委員（順不同）
事務局	千野、山下、天野（寒川町福祉課） 田中（ゆいっと） 内藤、湯田（すまいる）
議 事	地域生活支援拠点に関するワーキンググループ

地域生活支援拠点として、主に緊急時の受けいれ・対応、体験の機会・場について、寒川町でどう対応していくかについて検討する。

【1】これまでの経過について報告（町より）

（1）自立支援協議会での意見交換の経過

地域生活支援拠点として、緊急時24時間対応できる場所、相談できる人、一時的に短期入所できる場所が必要。短期入所の場合としては町外施設の確保が必要という意見があった。

（2）当事者アンケートの回答結果について

緊急時に過ごす場所として在宅を希望26件、在宅以外を希望19件。無回答3件。

短期入所を用意するだけでなく、緊急時の相談場所などを用意してほしい、という意見もあった。体験については、親亡き後の一人暮らしや地域で生活していくための練習場所が欲しい、という意見だった。

【2】意見交換

- ・入所施設がない、緊急時、健康管理センター、つくしの家は使えないのか？
- ・相談するところが明確にあると良い。部分的な支援をしてもらうには相談場所が必要。
- ・①自宅に来てもらえる②すぐに相談できる、この体制があれば「すぐに施設へ」という事でも良いと思う。
- ・将来のことを考えると、近くに施設があれば、そこに入れば良いが、その施設に手話ができる人がいれば安心する。手話が出来る人がいないと不安。筆談できない人もいる。
- ・同性の支援者がいれば何日かは過ごせる。
- ・ヘルパーの数が足りていない中で緊急時に本当に支援してくれる人がいるのか。
- ・緊急時24時間対応できる場所、相談できる人、一時的に入所できる場所町外施設の確保が必要。
- ・家に支援者が来てくれればという意見もある。どういったものがあったら安心して過ごせるのか。何のサービスを用意したらよいのか。
- ・短期入所等できる場所がない。予約が取れない。事業所を借りてやるのか、町の建物を借りるのか含めて考える。
- ・寒川町は地域の連携が強いと感じている。食に関わる業務に携わっているもので、長期的ではなくあくまで緊急時という状況ではあるが、何か役に立てるのではないかと考えている。
- ・聴覚障害者は緊急時に電話が出来ないので、FAXの活用出来るようにして欲しい。

(町より)

- ・いざという時のために町外の施設に、委託契約を結んでおく必要性を感じている。地域支援拠点として行政機関が認めた場合の緊急時の預かりは14日以内であれば定員を超えて対応することが出来る。
- ・寒川町では面的整備を進めていく予定。令和2年度内に(必要な機能の5つのうちの)何かに取り組んでいく必要がある。
- ・現在は基幹相談支援センターがないが、必要性を感じており今後検討が必要と考えている。
- ・人、場所、コーディネート機能を整備していく方向性で考えていただきたい。
- ・緊急時に備える「安心・安全プラン」のようなものがあるとよい。
- ・サービス等利用計画の作成や、モニタリングの機会を利用して、「安心・安全プラン」の作成ができるの良いのではないかな?

【まとめ】

- ・次回ワーキンググループで
 - ①緊急時の受入れ・対応の方向性の確認
 - ②体験の機会・場についてのイメージを共有する意見交換の2点について進める。
- ・寒川町らしく出来るものを創っていく。

【次回以降予定】

- 第2回 2019年 9月11日(水) 13:00~14:30 東分庁舎第2会議室
- 第3回 2019年10月23日(水) 13:00~14:30 電算会議室

寒川町地域生活支援拠点整備のイメージ（面的整備）

